

○野村聖子 平岡和香子

(実践女大家政)

目的 高齢者の衣生活について把握することを目的とし、高齢者の衣生活に関する意識調査及び着脱機能の分析、パターンの解析をおこなう。

方法 東京都多摩地区在住の男女高齢者に対し、衣生活に関する意識調査をおこなった。さらに着脱能力のある男女高齢者を対象に2種類のボタンの付いた組織別実験衣4種類を用い着脱時間を測定し同様の方法で若齢者に対しても測定をおこない比較検討した。さらに女性高齢被験者の測定値より体型別モデルとして標準体型モデルA、湾曲体型モデルB、屈身体型モデルC（背面の傾斜角度15度）、モデルD（背面の傾斜角度45度）を作成し平面製図法による適合性の分析及び立体裁断法による上衣パターンの検討をおこなった。

結果 ファッション性の優劣を調査したところ男女共約4割が劣っていると感じ、優れていると感じている者は男女共約2割であった。現在の若者の服装の印象は、高齢者の男女共、主に奇抜、軽快、個性的と感じる一方で自らの服装は主に無難、調和のとれた印象を持っている。着脱実験において、女性高齢被験者が平編の脱以外、すべての場合において男性高齢被験者を上回る結果となり、主に織組織に有意差が認められた。若齢者は男女共、すべての実験衣において着脱共に負の相関を含む様々な相関であるのに対し、高齢被験者は平織大ボタンの脱以外は全てが正の相関であった。平面製図法による原型を着用させ補正後、平面化したところすべてのモデルがBL、WL共に異なる位置を示し、モデルC、Dの脇線が後身頃方向へ傾いた。立体裁断法を用い平面化し分析したところすべてのモデルにB、P、W、L、B、Lなどに位置の変移がみられた。